

令和3年9月15日

広島大学教職員組合執行委員長

神野礼斉様

広島大学理事（財務・総務担当）

俵幸嗣

「法学部東千田再移転決定」に関する公開質問状に対する回答

東千田キャンパスの整備と法学部の移転については、部局長等意見交換会、教育研究評議会、経営協議会及び役員会において提案・説明し、文部科学省にも了解を得ているところです。移転決定後も学長定例記者会見、学内通信、学長メッセージにおいて学内外の皆様にご説明し理解を得てきました。また、法学部長が法学部の学生・教職員を対象に説明会を開催し、質問や疑問に答えてきたところです。

現在、教養教育や専門教育のカリキュラム編成など東千田キャンパス整備の具体的な計画について検討しており、その方向性が決定した際に、関係学生・教職員に説明を行います。

貴組合からの個別のご質問については、9月3日に口頭でご説明いたしました。改めて、これまで様々な機会でご説明してきた東千田キャンパス整備の考え方について、記載し、回答とさせていただきます。

○ 東千田キャンパス整備の考え方

広島大学は「広島大学創立75周年記念事業構想」にも掲げているように、本学の主要なキャンパスである東千田キャンパス、東広島キャンパス、霞キャンパスのそれぞれの特徴を活かし活性化することで、広島大学が自ら躍動し、広島の地を活性化させ、国際的に卓越した高等教育機関となるべく整備を進めているところです。

東千田キャンパスは、法学部・経済学部の夜間主コースの拠点として、医療系学生の教養教育の拠点として、また、平和研究の拠点として活動しているところであり、人間社会科学研究科実務法学専攻（法科大学院）において中国四国地区における法曹養成拠点としてその役割を果たしています。

この度の改革は、東千田キャンパスの上記の機能のうち、医療系学生の教養教育の拠点は霞キャンパスに移し、その他の社会科学系の機能を重点的に強化し、拠点化をはかるものです。同時に産学官連携拠点となるべく、地域社会や企業との連携で学習環境を整備し、市民の情報リテラシー教育の拠点としても整備するものです。

東千田キャンパスの整備はそれだけが孤立したものではなく、東広島キャンパスと霞キャンパスの機能強化と一体となったものです。3つのキャンパスのそれぞれの機能は、3つのキャンパスの連携と協働が緊密に行われることによって実現するものです。これを実現することで広島大学全体の教育研究の更なる卓越性の強化と社会との連携活動の拡充、国際的な連携共同活動の卓越性の強化を目指すことができます。広島大学の全ての学生、研究者は3つのキャンパスの整備

によって強化された機能が一体として稼働することで、国際的によりレベルの高い学習、研究環境を得ることができます。法学部の移転はこのような構想の中に位置づけられるものであり、広島大学の全ての学生、教職員、地域社会のための整備です。

一方、移転に伴いキャンパス間の移動を伴う学生については、これまで行ってきた霞キャンパスと東広島キャンパス間のシャトルバス運行と同様に、東千田・霞キャンパスと東広島キャンパス間におけるシャトルバスを運行させるなど、環境整備について検討いたします。

本事業を達成するための経費については、目的積立金と寄付金等で賄います。目的積立金の用途については、中期計画において「文部科学大臣の承認を受けて、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。」としており、東千田キャンパスの整備はこの範疇にあり、文部科学省の理解も得ております。目的積立金の全てを本事業に投入したのではなく、ご存知のように、若手教員採用加速、育成助教の拡充、教職員人件費の拡充等にも教育研究評議会、経営協議会の議を経て計画的に充てております。これまで、寄附金等の獲得を積極的に行ってきたところですが、それによって得られた財源を東千田キャンパスの整備費用にも充てることとなります。